

目指す学校像	○児童・教師がともに学び続ける学校○明るく気持ちの良い挨拶と笑顔が溢れる学校○安全・安心・美しい環境で地域に開かれた学校
--------	--

重点目標	1 学びの自律化に向けた情報端末の活用、授業改善、STEAMS TIME を活用した探求的な学びの推進 2 豊かな心を育てる教育の推進、安心安全な学校に向けた教育支援・相談体制の充実 3 学校運営協議会と協働し、保護者・地域に信頼される開かれた学校づくりの推進 4 教職員一人ひとりが力を発揮し、誰もが居心地の良い (Well-Being) 学校を作る教職員研修の充実
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学校自己評価			年度評価		学校運営協議会による評価		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策		
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査で、算数は全国平均と比べ概ね同等であり、国語はやや下回った。 ○さいたま市学習状況調査【学習に関する関心・意欲・態度】における「算数の勉強は好きですか」の肯定的な回答の割合がほぼ市の平均値と同じであった。 ○日頃の学習の様子から、与えられた課題にはまじめに取り組むことができるが、自分から進んで学習しようという意欲があまり見られない児童が多い。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、国語は「読む・書く」力、算数は「データの活用」等に課題があることがわかった。 ○国語、算数ともに「無回答率」が全国・市平均と比べて高く、難しい問題や新しい問題に取り組んでみようというチャレンジする姿勢、難しい問題でも最後まで諦めずに取り組む粘り強さを育てることが今後の課題である。	・学びの自律化に向けた情報端末の活用、授業改善 ・STEAMS TIME を活用した探求的な学びの推進	①スタディサプリ、ドリルパークを活用し個に応じた学習の習熟を図る。 ②朝の「がんばりタイム」でタブレット学習に計画的に取り組み、一人ひとりの苦手な単元を個別に指導する。 ③ICT を活用し対話的な学びの充実に寄り、思考を可視化し考えを伝えあう協働的な学びの場を設定した「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業を積極的に実践する。 ④「よい授業」の4つの因子を生かした授業、算数科における「三室スタンダード」型授業を充実させる。	①スタディサプリ、ドリルパークを授業や家庭学習で活用できたか。 ②朝の「がんばりタイム」の時間に、国語や算数の基礎的・基本的事項の定着を図る教育計画が実践されたか。 ③ICT を効果的に活用した『アクティブ・ラーニング』型授業を全学年で実施できたか。 ④エバンジェリストの模範授業を年間に2回以上実施できたか。 ⑤「よい授業」の因子を生かし、ICT を活用した授業を全クラスで実施することができたか。	①スタディサプリ、ドリルパークについて、宿題や長期休業中の課題、授業での習熟で活用することができた。 ②朝学習「がんばりタイム」でタブレットを活用した学習を位置付け、実施することができた。 ③児童用タブレットやオクリンク、今年度設置されたプロジェクターを活用して児童の思考を可視化し、学習内容の定着を図ることができた。 ④エバンジェリストによる授業を年間2回以上行い、授業での積極的かつ効果的な ICT 活用に生かすことができた。 ⑤全クラスで「よい授業」因子を意識した授業を実施できた。毎学期、全教員の授業を管理職が授業観察し、指導助言を行って授業力向上を図った。	①各教科、総合的な学習の時間、STEAMS TIME を中心に教科横断的な探究活動を実施できた。 ・学校評価アンケート「思考を可視化し、考えを伝えあう場を設定したアクティブ・ラーニング型授業を実施することができた。」における肯定的な回答89%	B	・アクティブ・ラーニング型授業の実施や個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けて、校内研修で ICT 活用研修やエバンジェリストによる授業公開を年間計画に位置付け、更なる授業力の向上を図る。 ・全教員が年間1回以上授業を公開することで、互いに授業を見合い、協働できる体制を確立するとともに、管理職による授業観察、指導を次年度も継続して行い、ICT を活用した授業力の向上を図る。 ・「よい授業」の4つの因子を生かした授業や算数科における「三室スタンダード」型授業を全学級で実施し、教員の指導力向上、児童の基礎学力の定着を図る。	学校運営協議会からの意見・要望・評価等 ・全国学力・学習状況調査で、国語が全国平均を下回ったのは残念である。文章を理解する力がないと、他の教科においても問題の意味を理解することができず、解くことができないので、国語の力は高めたい。 ・学びの自律化に向けた情報端末の活用、授業改善は、学校評価保護者アンケート「学校では、ICT 機器を活用して、児童がわかりやすいように学習指導を行っている。」で、肯定的な回答が93%と保護者からの評価も高く、概ねよいのではないかとと思う。
2	(現状) ○全国学力・学習状況調査の結果の生活習慣に関する調査において、「学校に行くのは楽しい」「友達と協力するのは楽しい」で市の平均を大きく上回っている。 ○昨年度の児童対象学校評価アンケートにおいて、「あなたは思いやりの心を大切にしていますか」で肯定的な回答が90%を上回った。 ○昨年度の保護者による学校評価で「学校は児童の事故防止に努め、施設・設備の安全に配慮している」「学習環境を整え、美しい環境づくりに取り組んでいる」で肯定的な回答が、90%以上であった。 (課題) ○コロナ禍におけるマスクの着用とマスクを外したらしゃべらないという教育が徹底されたため、子どもの表情が分かりづらく、挨拶の声も小さくなった。生活の変化が児童の心身に与えた影響は極めて大きく、今後も道徳教育を核とした心の教育と心を潤す学習環境の整備、児童一人ひとりの心のケアを支援していく体制づくりが必要である。 ○低学年に支援が必要な児童が多く、SA の配置や人的支援など、組織的な支援体制づくりは喫緊の課題である。 ○教職員による施設・設備の安全点検を確実に行うだけでなく、計画的な修繕・保守が必要である。	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・教育相談に向けた校内体制の充実 ・豊かな情操を育む、安全・安心で美しい学習環境づくりと SDG s 教育(食育)の推進	①、道徳授業を核とした心の教育と積極的な生徒指導の推進 ②「いのちの支え合い」を学ぶ授業や道徳教育を中心に、命の尊さ・思いやりの心・規範意識等について自分の事として向き合い、考えを深める。 ③定期的なケース会議を開くと同時に、情報端末を活用して児童一人ひとりの状況的確に把握し迅速な対応ができる校内体制を構築する。 ④配慮を要する児童の個別相談シートを作成し、保護者との面談を通じて理解を深め、支援の方策を確認する。	①学校評価(児童)「先生は困ったり悩んだりしたときに話を聞いてくれますか」の項目の肯定的な回答が90%以上であったか。 ②学校評価(児童)「あなたは思いやりの心を大切にしていますか」「三室小の約束を守っていますか」の項目の肯定的な回答が90%以上であったか。 ③学校評価(保護者)の「学校は子どもの悩みやトラブル等について適切に対応している」の項目で肯定的評価が90%以上となったか。 ④個別相談シートを作成し、保護者面談を確実に実施することができたか。	①学校評価(児童)「先生は困ったり悩んだりしたときに話を聞いてくれますか」の項目の肯定的な回答が90%以上であったか。 ②学校評価(児童)「あなたは思いやりの心を大切にしていますか」「三室小の約束を守っていますか」の項目の肯定的な回答が90%以上であったか。 ③学校評価(保護者)の「学校は子どもの悩みやトラブル等について適切に対応している」の項目で肯定的評価が90%以上となったか。 ④個別相談シートを作成し、保護者面談を確実に実施することができたか。	①校内教育相談体制を確立し、児童に寄り添いながらトラブルや悩みに対応することができた。 ・学校評価アンケート「悩みや困ったことがあるとき、誰かに相談できます。」における肯定的な回答85% ②「いのちの支え合い」を学ぶ授業や道徳授業を中心に、思いやりの心や規範意識の育成を図ることができた。 ・学校評価アンケート「毎日、友達と仲よく過ごしています。」における肯定的な回答98% ・学校評価アンケート「三室小のやくそくや生活目標を守って生活しています。」における肯定的な回答94% ③情報端末を活用して、学年や学級、児童一人ひとりの状況について情報収集、共通理解を図り、迅速に対応できる体制づくりを図ることができた。 ・学校評価アンケート「学校は、児童の悩みやトラブル等に適切に対応している。」における肯定的な回答90% ④配慮を要する児童の個別相談シートを作成し、SC、SSW との連携を密にして保護者面談を行うことで、効果的な支援の方策を考えることができた。	B	・次年度も道徳授業を核とした心の教育の推進を継続していく。各学期に管理職による授業観察、指導を行うとともに、学校公開や授業参観で全学級が1回以上道徳授業を行い、授業を公開することで、保護者の理解、協力が得られるようにする。 ・情報端末を活用した情報収集、共通理解を確立するために、教育相談、ケース会議を年間計画に位置付け、児童の悩みやトラブルに対して、迅速かつ組織的に対応できる校内体制を発展させていく。 ・配慮を要する児童について、ケース会議や保護者面談を重ね、全教職員での組織的な対応を進めてきたが、今後は、より効果的な支援が行えるよう、外部機関を積極的に活用し、連携を密にしていく。	・全国学力・学習状況調査の結果の生活習慣に関する調査において、「学校に行くのは楽しい」というのは大変重要なことで、この評価が高いのは素晴らしい学校であることの証である。 ・マスク着用の問題については、今後の課題で、マスクを外す習慣になれる必要がある。 ・学校評価アンケートの結果から、いじめのない学校づくりや報告、連絡、相談、見届けの体制づくり、教育相談体制の確立等、児童一人ひとりへの細やかな対応に向けた取組が非常に充実していることが分かる結果であった。
3	(現状) ○昨年度、学校運営協議会準備委員会において、次年度に向けた具体的な改善策 ①国語力の向上②あいさつの励行③体力の向上④食育)を共有し本年度の学校運営協議会のテーマとした。 (課題) ○学校運営協議会準備委員会に共有した指導項目を地域・家庭等に周知し、共通理解の下、より具体的な取組について熟議し、その実現に向けた方策を定め継続的な行動に向けた一歩を踏み出す。 ○学校運営協議会の熟議の進行の仕方を工夫し、より関連な意見交換ができるようにする。	・児童、保護者、地域から信頼される学校づくりの推進 ・目指す児童像「かしこく・やさしく・たくましく・うつくしく」を地域全体で共有しそのための方策を熟議する。	①学校運営協議会を年3回開催し、熟議をもとに協働活動を行う。 第1回 地域で育てたい力等について 第2回 地域で育てたい力の実現に向けた具体的方策について 第3回 基本方針の確認と次年度の学校経営方針案の仮承認 ②地域や保護者へ教育活動の情報発信を学校だけでなく、学校安心メールやHP、を活用して確実に情報共有する。	①学校運営協議会を年3回実施し、委員とともに学校運営について十分な協議ができたか。 ②学校評価(保護者)「各種たよりやホームページ、学校安心メール等で積極的に情報を提供している」項目の肯定的な回答の割合が80%以上となったか。	①年3回の学校運営協議会の中で、委員とともに学校運営や児童に身に付けさせたい力や学校と地域が連携した取組について熟議することができた。 ②学校たよりや学校安心メール、学校ホームページを活用し、地域や保護者へ教育活動の情報発信を確実に行うとともに、情報の共有、連携を図ることができた。 ・学校評価アンケート「学校は、授業参観や学校行事、学校安心メール、学校ホームページ等を通して、家庭との連絡・連携を適切に行っている。」における肯定的な回答93%	・学校運営協議会で熟議した内容を発信し、児童が保護者や地域住民とともに行う活動を年間計画に位置付け、実施していく。 ・外部講師を積極的に招聘し、教育活動の更なる充実を図り、特色ある教育活動を推進していく。 ・保護者、地域から信頼される学校づくりに向けて、次年度は、学校ホームページの充実を図り、児童の活動の様子や特色ある教育活動を積極的に発信し、理解、協力を得られるようにする。	A	・地域で育てたい力については、コロナ禍でもあり、熟議を重ねたが、ほとんどできなかったのが実情であった。 ・学校評価アンケートで児童からはA評価が多く、保護者からの評価はB評価が多いのが面白い結果であった。いずれにしても肯定的な回答が90%を超えて学校は信頼されていることが分かった。	
4	(現状) ○教職員一人ひとりがICTを研修、活用し業務を効率化、時間短縮化ができるようになってきた。 ○高学年での教科担任制実施により、担当する教科について、より深い教材研究が出来ている。 (課題) ○ICTの活用について、教員間で取り組みの差が見られる。誰もが学び続けることができる職場環境作りが求められる。	・教職員一人ひとりが力を発揮し、学校に集う誰もが居心地の良い(Well-Being)学校を作る。 ・教職員の職務遂行能力向上を図る研修と環境の充実	①「よい授業」の4因子を意識した授業を実施し、教員一人ひとりに目標因子を設定させる。 ②「三室小の一日」を共有し、よりよい教職員関係の構築と共通行動が取れるようにする。 ③ICT サポーターによる研修を年間計画に位置づけ教職員全体のスキルアップを図り、エバンジェリストを中心にICTを活用した授業実践、授業公開を実施する。	①よい授業アンケートの一人ひとりに合わせた目標の因子が0.2pt向上したか。 ②教職員による評価「共通理解を心がけ、指導している」項目の肯定的な回答の割合が80%以上となったか。 ③学校評価(教職員)「ICT機器を積極的に活用した授業が展開できた」「研究授業や研修を通して、ICTのスキル及び指導力が向上した」の各項目の肯定的な回答が80%以上となったか。	①全教員が目標を設定し、「よい授業」の4因子を意識した授業を実施したことで授業改善、学校の教育力の向上を図ることができた。 ・「よい授業」集計結果 6月平均17.3→11月平均17.6(+0.3pt) ②三室小の一日や生徒指導、教育相談について年度当初に全教職員で共通理解を図り、教職員関係の構築と共通行動が取れる校内体制づくりを推進することができた。 ・学校評価アンケート「全教職員の共通理解のもと、生徒指導・教育相談が行われている。」における肯定的な回答100% ③ICT サポーターによる研修やエバンジェリストによる授業公開で教職員全体のスキルアップを図り、効果的にICTを活用した授業実践ができた。 ・学校評価アンケート「よい授業因子を生かし、ICT機器を友好的に活用した授業を実施することができた。」における肯定的な回答100% ・学校評価アンケート「ICT活用研修の実施により、ICTを活用した授業力の向上が図られている。」における肯定的な回答100%	・次年度もICTサポーターやエバンジェリストによる研修を年間計画に位置付け、教職員のスキルアップ、学校の教育力向上の取組を発展させていく。 ・日常の業務や職場環境について、教職員アンケートや校内委員会を実施し、改善点や改善策を協議して教職員一人ひとりが力を発揮し、気持ちよく働くことができる環境づくりを推進する。	A	・学校評価アンケートから推し量ると、ほとんどの項目でAB評価合わせて90%を超えていることを評価したい。 ・学校評価教職員アンケートで、B評価をする教職員が多いが、自分自身自信をもってA評価をつけてほしい。謙虚すぎるのではないかとと思う。	